

男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信

事務局 秋田県立支援学校天王みどり学園 発行 平成29年7月10日 No.13

H29年度第1回男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会

1 全体会

(1) 事務局の報告

昨年度の本地区の一番の成果は、地元開催の本連携協議会が6市町村全てで実施できたことです。各市町村で話し合われた内容の中から特徴的な取り組みと、本校で、地域の児童生徒保護者を対象に実施している「障害理解教育の出前授業」について紹介をしました。

(2) 潟上市年中児親子相談会の取り組みについて

潟上市教育委員会教育部幼児教育課主席主査 戸田 妙子 氏

昨年度スタートした、「潟上市年中児親子相談会」について発表がありました。この相談会では、発達の課題を早期に発見し、適切な就学先の決定や就学後の一貫した支援に繋げていくことを目的としています。

また、全保護者と面談を実施したり、幼稚園・保育園の担当者がスタッフから専門的なアドバイスをもらったりできることも特徴的で、各園においても、明日からの実践につながる、就学期を迎えるための準備を始める効果的な契機となっています。

事後の子どもへのフォローとして、今年度からスタートさせる幼児版通級教室の紹介がありました。

<幼児通級教室（わくわくタイム）>

目的：年中親子相談会後も発達課題をもつ子どもに対し継続した支援を行うことで、子どもの安定した発達及び保護者が子どもの就学に対し不安なく迎えることができるように支援する。

内容：スタッフ（教育支援アドバイザー、保育士、保健士、幼児教育課、学校教育課）による個別指導。1人月1回、30分程度の時間を設定し、上記スタッフが、個々の発達状況に合わせた課題を設定し実施する（今年度7月より実施予定）。

さらに、今年度は、昨年度の取り組みから課題としてあげられた課題（・子どもの集団適応に心配している保護者の気持ちの負担感を減らすための方法・発達チェックの結果の詳しい説明の仕方等）についても配慮し、11月に実施予定だと話しがありました。

(3) 効果的な校内支援体制の在り方

五城目小学校教諭 児玉 信子 氏

気になる生徒に対するきめ細やかな支援を実現するための校内支援体制の在り方ということで、具体的な取り組みを通して、以下の3点から発表がありました。

①複数コーディネーター

- ・特別支援教育コーディネーターは3名配置し、明確な役割分担をしている（校外：教頭、校内・研修：特別支援教育主任、カリキュラム：教務主任）。校内委員会、校内研修会、関係諸機関との連携については、複数で相談しながら年間指導計画を作成している。毎年、次年度指導計画を3月までには作成し、年度が変わりコーディネーターが変わっても、他のコーディネーターが対応することでとぎれない支援体制を支えるようにしている。

②「チーム五小」で

- ・生活支援員には、コーディネーターである教頭が、月に1度サポート打ち合わせを開き、子どもについての情報交換を行っている。生活支援員の記録簿は、管理職、コーディネーターや担任、関係者（養護教諭、特別支援教育主任）で回覧し支援員同士でも見合う。支援員同士でファイルを見合いながら話し合う場面を目にする機会が増えた。支援の仕方を情報交換するのに役だっている。記録簿へのコメントなどを通して担任とのコミュニケーションのツールとしての役割を果たしている。



③個別の指導計画を活用して

- 個別の指導計画をもとに、年度末に引き継ぎを行うようにしている。担任だけで作成・評価をするのではなく、さりげない時間に学年で話し合う、記述したものを見合うことを大切にしている。

全体を通じ、支援を必要とする児童には、担当者が変わっても「0からのスタートではない支援」になることを目指し、「チーム」としての意識を高めながら校内体制を作っているということが強く伝わってきました。

2 市町村ごとの分科会から

(1) 男鹿市

- 五城目小学校の複数コーディネーター配置や支援員の打合せなど、他校にも広めたい校内支援体制だと感じた。
- 潟上市の幼児通級教室の取り組みは大変興味深い。
- 支援を受けることを認めない保護者がいる状況は、高等学校になるとさらに強くなる気がする。障害受容、自己理解についての、早期からの継続した働きかけが必要だと思う。
- 通級指導教室の先生の参加は嬉しい。小学校の特別支援学級の担当者にも参加してほしい。



(2) 潟上市

- 小学校からの個人ファイルなどの情報が、中学校でも役だっていることが分かり良かった。
- 幼保、小、中のつながりと、中高の断絶（情報連携の難しさ）を感じた。高校でも支援が必要な生徒に対する理解を深めていきたい。

(3) 五城目町

- 学校のチーム力が素晴らしいと感じた。自校の校内支援体制に役立てたい。
- 個別の指導計画について、小中学校の形式の統一など、ぜひ考えていきたい。

(4) 八郎潟、井川町、大潟村

- 潟上市の取り組みは、早い段階から子どもたちを理解し、連携して育てていこうとするネットワークがしっかりしており、長い目で将来を見据えた支援の在り方として参考になる内容だった。
- 潟上市の発表は、八郎潟町でも、今年度から4歳児健康相談を実施予定のため、参考になった。
- 保護者相談会については、井川町は日程がつかず潟上市の取り組みに参加できなかったが、今年度はぜひ参加したい。
- 支援員との打合せを、現在は隔月で行っているが、今後は1回/月のペースで行いたい。

3 今後の本協議会について

- 地元開催の連携協議会は、いろいろと情報交換ができるので、2回/年で実施したい。ケース検討会なども取り入れていきたい。
- 同じ地域での分科会は大切だが、他地域での取り組みをもっと聞けたらありがたい。
- 有効だった取り組みの紹介や進路等の情報交換の場でもあればいいと思う。
- 情報も多く、内容が充実しているため、会議の時間を長くしてほしい。

* 学校現場での取り組みの紹介は、本協議会で取り上げるのは新鮮であり反響も大きかったです。自己理解や障害受容などの重要性も本会議の中で多く聞かれるようになってきたので、障害理解の取り組みなども学校現場の取り組みとして具体的に紹介する場なども設けていきたいと考えています。

4 事務局からのお知らせ

(1) 地元開催の連携協議会について（男鹿市は、11/8・1/11に決定）

- 各市町村の行政担当者と連絡を取り合い、開催時期等を検討したいと思います。昨年度は、初めて全ての市町村で開催できました。ぜひ、今年度も、「連携」から「接続」へと深めていくことができる話し合いの場にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(2) 「就学や教育に関する相談会」

- 今年度は、8/21（月）秋田県総合教育センターを会場に開催されます。就学相談をはじめ、発達に関することや特別支援学校のこと等、気軽に相談できます。各市町村教育委員会が窓口になっていますので、ご活用ください。